

グループホームあすなる

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0971000450		
法人名	特定非営利活動法人あすなる友の会		
事業所名	グループホームあすなる		
所在地	栃木県大田原市佐久山2274-5 (電話) 0287-28-3676		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算6.66人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,670円	その他の経費(月額)	・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・光熱水費-500円/1日 ・日用品費・教養娯楽費等 -200円/1日
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	250円	昼食 300円
	夕食	400円	おやつ 50円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(平成19年10月15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.44歳	最低	72歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿部内科、高橋医院、室井病院、前田歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、かつての保育園の敷地内に建てられており、保育園であった建物は今は子育て支援の「集いの広場」として使われ、同法人が運営する学童保育がある。ホームからは庭を挟んで子どもたちの姿が見え、その子どもたちとのふれあいも楽しみとなっている。地域の人と共に活動してきたNPO法人が運営主体であることから、住みなれた地域での安心した暮らしを支える地域密着型サービスの素地があった。事業所は地域の中での役割を担い、地域の中で活かされている様子がうかがえた。職員の離職が少なく馴染みの管理者や職員がいることが入居者の安心につながっている。現在、「グループホームの家族」として最期を看取る」といった支援方針で全職員が理事長(医師)と終末期医療の勉強会を重ねている。看取りは日常ケアの延長上にあるものとして、困難であっても真摯に取り組もうとしている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善項目は、職員会議で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。例えば、「食事量チェックの仕方を食事の雰囲気や壊さないよう工夫する」、「職員のストレスに対する配慮として業務の見直しを行うことで30分の休憩時間を確保する」などの改善をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員参加で自己評価に取り組んでいる。職員からも外部評価を質の向上のきっかけにしようとする姿勢が見られる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、市や地域包括支援センターの職員、地域の代表など出席者との積極的な意見交換がなされている。会議の中では、夏祭りの開催日時の設定に参考となる情報や、法人が行おうとしている福祉有償運送事業のドライバーのなり手の情報など様々な情報が交換されている。日常的に市役所を訪れることで、市の担当者に事業所の取り組みなどを折に触れ伝え、何でも相談できる関係となっていることが運営上の心強さにつながっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月1回、ホームから送られるお便りには、事務連絡や担当職員からのコメント、その月の入居者の写真の中から選りすぐりの一枚、1ヶ月のバイタル、食事摂取量、排泄などの記録のコピー、請求書、金銭出納帳の写しなどが入っている。これにより、家族はホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、行事予定などを知ることができる。家族からの運営に関する意見や要望などはまだ具体的にはできていないが、家族会などで意見を述べる機会はある。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
	<p>グループホーム開設以前から「あすなる友の会」として地域で活動していたので、当たり前のように自治会に加入しており、回覧板が回ってくる。地域の方は「ご近所さん」として遊びにくる。草むしりやごみステーションの清掃などを入居者で行うことが日常の一コマとなっている。「高齢者ほほえみセンター」で医師である理事長が健康相談をしていた関係もあり、合同で運動会を開催するなど地域とのつきあいは更に深まっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「人としての尊厳と自由を守るケア」「残された機能をのばすケア」「力をあわせて、なじみの環境をつくるケア」など、わかりやすく具体的に8つのケアとして表現し、それをもとに職員が話し合っって年間の目標を設定している。今年度は「心のゆとりを持ったケア」を目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎日理念を唱和することで支援のあり方を確認している。管理者は、職員にケアのあり方を具体的にイメージできるように話している。例えば、理念の一つ「自分の欲しいケア」について、管理者は「自分だったら、自分の大好きなお母さんだったらどうする」と、若い職員が想像できるように問いかけるなどして、気づくことを大切にしていることがうかがえた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホーム開設以前から「あすなる友の会」として地域で活動していたので、当たり前のように自治会に加入しており、回覧板が回ってくる。地域の人々は「ご近所さん」として遊びにくる。草むしりやごみステーションの清掃などを入居者で行うことが日常の一コマとなっている。「高齢者ほほえみセンター」で医師である理事長が健康相談をしていた関係もあり、合同で運動会を開催するなど地域とのつきあいは更に深まっている。	○	地域医療・地域福祉に取り組む医師である理事長が地域の人と共に活動してきた会が運営主体である「NPO法人あすなる友の会」である。グループホームを開設する以前から、住みなれた地域での安心した暮らし、関係性の継続、地域での生活の継続を支える地域密着型サービスの素地があったと言える。地域福祉の先駆的实践として更に地域の中での取り組みを深めていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善項目は、職員会議で話し合っって具体的な改善に取り組んでいる。例えば、「食事量チェックの仕方を食事の雰囲気壊さないよう工夫する」、「職員のストレスに対する配慮として業務の見直しを行うことで30分の休憩時間を確保する」などの改善をしている。	○	改善項目として指摘された内容だけでなく、外部評価を受ける過程で気が付いたことを職員も自主的に改善している。例えば、「薬の与薬は見守ることを徹底し、できることを見極めて必要なところだけ支援するようにした」との職員の言葉から、ケアの質を向上させようとする姿勢がうかがえた。今後も自主的に質の向上に取り組むことを期待したい。

グループホームあすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市や地域包括支援センターの職員、地域の代表など出席者との積極的な意見交換がなされている。会議の中では、夏祭りの開催日時の設定に参考となる情報や、法人が行おうとしている福祉有償運送事業のドライバーのなり手の情報など様々な情報が交換されている。	○	運営推進会議を通してホームの情報が地域に伝わり、地域の情報がホームに入ってくる。今後も運営推進会議を有意義な意見交換の場として活かしていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各事業所向けの連絡棚が市役所の担当課のフロア内にある関係から、日常的に市役所を訪れている。このことは、市の担当者に事業所の取り組みなどを折に触れ伝える良い機会となっている。市内のサービス事業者連絡協議会や地域密着型サービス事業者の連絡会の中でも市との話し合いが積極的に行われ、サービスの質の向上だけでなく、何でも相談できる関係となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ホームから送られるお便りには、事務連絡や担当職員からのコメント、その月の入居者の写真の中から選りすぐりの一枚、1ヶ月のバイタル、食事摂取量、排泄などの記録のコピー、請求書、金銭出納帳の写しなどが入っている。これにより、家族はホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、行事予定などを知ることができる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見や要望などはまだ具体的にはでていないが、家族会などで意見を述べる機会はある。家族会の事務局は「家族係」の職員が担っている。今まで家族からの苦情は1件で、それに対しては、職員会議で話し合い、市に相談して対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、入居者との馴染みの関係ができあがっている。職員の離職が最小限に抑えられている要因として、管理者は、若い常勤の職員と年上のパートの職員の関係が良いこと、職員が意見を出しやすい環境にあり、職員が成長してきていることを挙げている。	○	「離職を最小限に抑えられているのは職員も経営状況まで知っていることも要因ではないか」という事務長の言葉は、運営の透明性を求められるNPO法人の趣旨が活かされていることを示している。離職が少なく馴染みの管理者や職員がいることが入居者の安心につながっている。この状態が継続されることを期待したい。

グループホームあすなる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員参加で年間研修計画を立て、職員が望む内容も盛り込まれている。常勤、パート職員の区別なく研修の機会がある。職場内で意見を出し合える環境があり、若い職員の意見も反映されるようになってきていることから、管理者は、自分で考え、自分の意思で行動することができる職員に成長してきていると認識している。若い職員は入居者一人ひとりのペースにあわせた介護ができるようになったことを挙げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会等には、管理者と共に職員も参加している。他の施設を訪問したり、見学を受け入れたり、電話で情報交換をするなどの関係をもっている。今後、市内の同業者とのネットワークを構築したいと考えている。	○	市内サービス事業者連絡協議会はあるが、同業者（グループホーム）とのネットワークを構築することにより、グループホームの抱える課題を共有し、更なるサービスの質の向上のため独自の研修会など共に取り組むことができ、市内のグループホームの質の向上、質の平準化などが期待できるので取り組みに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談時に家族と共に見学してもらい、空きが出るまでの間遊びに来てもらい、入居準備の段階から家族や友人を巻き込むようにしている。入居に際しては、家族と一緒に自分の部屋づくりをすることで家族との関係性を切らないようにしている。デイサービスに来ているつもの入居者やお泊まりに来ていると思っている入居者にはそのような対応をすることで、徐々にホームに慣れてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は料理のコツなど入居者に教わることが多いという。入居者は職員の疲れている様子を見て椅子を出して労り、職員は友人の死を知りショックを受けた入居者の悲しみを共に受け止め寄り添うなど、共に暮らす者としての支え合う関係ができている。		

グループホームあすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初のアセスメントはケアマネジャーである管理者が行うが、その後は入居者を担当する職員と二人で入居者の思いや意向をセンター方式で徐々に聞き取っている。「しつこくしないでください」と言う入居者もいるので、職員は「何をしたいか」を推測しながら、無理のないように意向の把握に努めている。押し付けでない支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーと入居者を担当する職員によりアセスメントが行われ、介護支援計画が作成されるが、入居者や家族の意向は、それぞれの具体的な言葉で表現され、その人らしさを大切にする支援内容となっている。サービス担当者会議は、担当職員が中心となり、職員会議の場だけでなく朝のミーティングやお昼休みなどを利用して行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に6ヶ月で見直しているが、心身の変化に応じて適宜変更している。月1回行われるモニタリングや日々の介護記録をもとに、担当する職員が準備してサービス担当者会議を行い、その上で介護計画が見直されている。家族の意向は面会の時に管理者が把握するが、電話で聞き取ることもある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人理事長が医師であり医療機関との連携が取りやすい。入居者・家族からは医療に関する支援の要望が多く、本人・家族の状況に応じて職員が通院、送迎支援を行うこともある。地域に認知症対応型共同生活介護事業所であることが周知されてきたことで、近所の方が認知症の方の相談に訪れることがある。	○	事業所では今後、近隣の高齢者が状況に応じて利用できるショートステイを行う計画をしており、ホームの多機能性がより高まることを期待したい。また入居者の重度化に伴い、看取りケアについて医師である法人理事長を講師に勉強会を重ね、必要な支援に備えているのでケアの充実につなげていくことに期待したい。

グループホームあすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医（内科、歯科、精神科）のほか、入居者のかかりつけ医（整形外科、眼科、皮膚科、リウマチ科）などの医療を自由に受診できるよう、通院は基本的には家族が行うことになっているが、家族が対応できない場合は職員が通院支援をすることもある。受診、往診には事業所独自の「連絡表」を使い、受診経過が分かるように工夫をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに入居者を看取った例はないが、事業所として「看取りに関する指針」「同意書」の書式ができています。今後ホームでの看取りを希望する入居者・家族等へはホームとして「できること・できないこと」を伝え、話し合いを重ねた上で同意書を交わし、「グループホームの家族として最期を看取る」といった支援をしていく方針である。現在、全職員が同法人の理事長（医師）と終末期医療の勉強会を重ねている。	○	入居者および家族等にとって、重度化すること、終末期を迎えることは大きな不安が伴うことになる。入居者が安心して納得した最期を迎えられるよう、早い時期から話し合い、方針を立てておくことが期待される。看取り支援は24時間365日医療連携体制が不可欠であり、職員の体制によっては対応が困難となる場合もあるが、看取りは日常ケアの延長上にあるものである。理念を基に積み重ねてきたこれまでのケアを活かし、更に医師との連携を密にして、看取りを実現させることに期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームのケア理念の1つである「人としての尊厳と自由を守るケア」が実践されており、職員は常に入居者がどうしたいか、どうして欲しいかを考え、さり気ないケアをしている。個人情報に関する資料ファイルは書庫や事務室の鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、余暇時間などは入居者のその日その時の気分に合わせて柔軟に対応している。大まかな日課は組んでいるが、余暇の時間などで気分が乗らない方は本人の気持ちを尊重して自室で過ごしたり、希望することを行うなど、本人のペースを大切にしている。	○	今年、職員は入居者一人ひとりについて時間をかけてゆっくり話をしたり聞いたりする『その人を見つめる』ことに取り組んでいる。利用者のその人らしい暮らしを支える大切なことと思われる。「支援する人、される人」という関係だけではない『その人を見つめる』ことの効果に期待したい。

グループホームあすなる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望を取り入れて献立・衛生係が立て、準備は得意な入居者も加わり調理している。身体機能（嚥下、咀嚼等）、健康状態（高血圧、糖尿、高脂血症等）に配慮して、食器、盛り付けなど「入居者にとってどうか？」という視点で工夫されている。季節料理、郷土料理にも力を入れている。季節の野菜が近隣から届くこともある。前回の調査で指摘された食事量把握を食事中にチェックボードに記入していた方法を、職員と一緒に食事をしながら見守り、摂取状況を確認し、食事後記入するように改めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の希望、体調を確認後に入浴することとしている。風呂場に入浴チェックシートを置き、入浴回数を把握している。入浴を希望しない日が続く家族の協力を得たこともあった。また仲のよい人同士で入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から以前の職業や好きなことをくみとり、ボランティア等の協力で習字、短歌、絵手紙、化粧教室などを行うほか、入居者の得意分野の本の読み聞かせ、紙芝居、やってみたいこと、楽しみごとの支援をしている。入居者が干し柿づくりのコツを職員に伝授したり、料理の知恵を教える場面もある。またホーム外回りの環境整備、野菜作りなどで活躍する方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	火・金曜日のごみ出し、散歩、買い物、理美容院、高齢者ほほえみセンター（地域の高齢者の集いの場）との交流、月1回の外出など様々な支援をしている。突然の買い物など希望に添えないときもあるが、後日希望に添えるようにしている。	○	今年、職員は『入居者一人ひとりを見つめる』ことを意識したケアをしており、入居者からは行ってみたい所として「温泉」「夫の墓参り」「カラオケ」「選挙」などが出てきた。「普通の生活」を支えるための個別の希望をかなえるための工夫、検討を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りは事務室から見えており、居室ベランダからも外に出ることはできるが日中は鍵をかけず、外出しそうな時は職員がさり気なく声をかけたり、一緒に外出に付き添ったりして安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。また、職員が気が付かず外出した場合は、「重要事項説明書のホーム外徘徊が発生した場合の対応」に従うことになっている。自治会へは、連絡方法等を明示した文書を年数回、回覧して協力をお願いしている。		

グループホームあすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については、他県グループホームの火災後、シュミレーションにより勉強会をした。消防計画を立てて避難場所を変えるなどの工夫をして年2回避難訓練を行っている。今年は消火器の試用訓練をした。また、OJT（職場内研修）として「緊急時の対応について」を実施した。緊急時初期対応は医師の指示のもと、職員会議で話し合っている。	○	職員の不安が大きい夜勤時火災の対応を、日中に夜間を想定して（職員は夜勤者1人の設定で）訓練をしたり、様々な場面を想定して定期的に継続して訓練することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みを取り入れて職員が立てたメニューは、1日の必要量が確保できるよう連携施設の管理栄養士の栄養バランスや見直しの指導を受けている。食事の時に入居者と職員と一緒に食事をして大まかな摂取量を把握している。職員は今年、介護食調理の研修を受けた。水分は10時は緑茶、ほうじ茶、紅茶、コーヒー、ココア、ミルクから好みの飲み物を、15時のおやつは緑茶、と食事の時以外にも摂取できるよう工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木がふんだんに使われた平屋和風造りで、庭も広く花壇、農園も季節ごとに楽しめる。台所、食堂、居間はワンフロアのオープンキッチンで調理中の料理の姿、ご飯の炊ける匂い、季節の材料などから五感や季節感を自然と感じられる。食事用テーブルのほかに椅子・テーブルセットが置かれ、続く一段高くなっている畳の居間は長い掘りごたつがあり入居者が思い思いに過ごせるスペースとなっている。玄関、居間、食堂には季節の花、鉢植えが飾られているなど居心地よい空間としての配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好みでベッドを入れたり、畳スペースに布団を敷いたりしている。職員は随時家族と話し合い、本人に良いと思われるものを取り入れていて、ご主人の仏壇、使い慣れた時計、タンス、こたつ、椅子など持ち込まれていて居心地のよさに配慮している。症状により家族と相談して居室に置く物を少なくしている場合もある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。